The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	所感と提言　陳芳教授の発言に対するコメントと大阪会議に参加した感想
Author(s)	李, 顕軍
Citation	OUFCブックレット. 2016, 8, p. 121-124
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/55467
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

所感と提言

陳芳教授の発言に対するコメントと大阪会議に参加した感想

李 顕 軍

問題となる最も主要な誘発要素とは，現在の我々の生活環境の悪化，食品産業の基礎の低下，未だ模索中の監督体制，規範を失った道徳，信頼不足，改善が必要な政府の公共サービスであろう。

現在, 先進国の食品安全が経験する歴史的変化には主に 3 つの特徴が存在する。

1 つ目は食品安全の基準・特徴と社会経済の発展レベルとの密接な関係である。2 つ目は先進国が実現した 2 度の転換である。それは，粗悪品や偽物の使用から農薬･動物用医薬品の残留を主とする化学汚染への転換と, 農薬･動物用医薬品の残留を主とする化学汚染から化学･生物という二重汚染への転換である。3 つ目は先進国や発展途上国を問わず現在の世界が食品安全問題の挑戦に直面していることである。

先進国の食品安全には 3 つの成功経験がある。それは，農作物生産と食品加工の根源の部分のコントロールを重視したこと, 食品安全のリスク評価とコミュニケーションを重視したこと, そして食品安全の大衆科学教育を重視したことである。

以上の特徴と成功経験が我々に与えてくれる示唆は以下の 3 つである。

1 つ目は，工業化の段階で環境の生態保護を重視しなければならず，環境を犠牲にして経済を発展させる道に再び進むことはできないということで

ある。2 つ目は，食品安全の重大問題において，先進国政府と公衆の間に存在した良好な相互作用が問題を除去したという重要な経験である。3 つ目は，出現する食品安全問題が国家の経済発展の段階によって異なり，段階的かつ戦略的な対策が必要だということである。

思沁夫教授と田中教授が組織されたシンポジウムは非常に成果があり，法律法規，心理学，哲学と異なる研究方面から環境保護，持続可能な発展と食品安全に対して詳細な検討を行った。日本の専門家の生き生きとした発言，特に大阪経済大学の横内恵教授のグローバルな食品安全のトレーサビリティに関する法律面からの紹介と研究・検討は非常に有意義であり，中国が学習し，参考にする価値を非常に有している。また，我々の今後の研究にも有益な助言やサポートを提供し得るので，今後，更に交流し連携する機会があることを望んでいる。

今回の会議の具体的な感想

1. 何が有機であり，有機は持続可能性と同じなのか?　今回の会議を通じてこれら一見したところ明らかな問題についても，未来的視角と学際的視角から思考した場合，問題は非常に複雑になり，関係する面は非常に広く，対話と交流が必要である。今回の会議を通じて，文理の枠や理論を超えた実践的対話の必要性を痛感した。

2. もう 1 つはリスク概念の深い含意である。今回の会議は法律的角度からの話が多く，あまり理解していない部分もある。しかし，私への啓発は非常に大きい。私の理解では，技術の向上には一刻の猶予もないが，方法の向上もまた重要である。リスク概念を通して食品安全問題への理解を広げるだけでなく，時間的感覚も広げなければならない。現在の有機農業も未来のリスクになり得る。よってあらゆる視角からの検討と対話が必要である。

（和田英男 訳）

对陈芳教授发言的点评和参加大阪大会的感想

李 显 军

形成以上这些问题最主要的一个诱发因素就是目前我们生活的环境变的越来越恶劣，食品产业基础比较低下，监管体制还在不断的摸索中，道德失范诚信缺失，政府公共服务需改进。

目前发达国家食品安全的历史性演变主要存在三大特点：一是食品安全水平和特征与社会经济发展水平密切相关。二是发达国家成功实现了两次转型：从掺杂使假向农药，兽药残留为主的化学污染转型;农兽药残留为主的化学污染向化学和生物污染并重转型。三是当今世界无论是发达国家还是发展中国家都面临食品安全问题的挑战。

而发达国家食品安全的三个成功经验有：重视农产品生产和食品加工的源头控制;重视食品安全风险评估和交流;重视食品安全科普教育。

从以上的这些特点与成功经验可以给予我们的启示是：一是在工业化阶段，必须十分重视环境的生态保护，再也不能走以牺牲环境作为发展经济的道路;二是在重大食品安全问题上，发达国家政府与公众之间的良性互动是化解问题的重要经验;三是不同国家在其经济发展不同阶段，所表现出来的食品安全问题是不一样的，必须有阶段性的战略对策。

思沁夫教授和田中教授组织的研讨会非常有成效，从法律法规，心理学，哲学以及研究层面对环境保护，可持续发展和食品安全做了深入探讨。日本的几位专家的精彩发言，尤其是大阪经济大学的横内惠教授关于全球食品安全追溯法律方面的介绍和研究探讨很有意义，非常值得中国学习借鉴，也会对我们

以后的工作提供有益的支持和帮助，期望以后还有机会进一步交流，合作。

通过此次大会的具体感想

1. 什么是有机，有机是不是等于可持续？通过此次大会这些看起来明白的问题，如从未来和跨学科的视角去思考，问题会很复杂，牵扯的面也很广，需要对话和交流。通过这次大会，切实感受到了跨文理，跨理论和实践对话的必要性。

2. 风险概念的深刻含义。此次大会好像从法律的角度谈的多，也有不太理解的部分。但是，对我的启发很大。我的理解是，提高技术刻不容缓，提高方法也极其重要。通过风险概念，不但拓宽了食品安全问题的理解领域，也拓宽了时间感。今天的有机也可能成为未来的风险。所以需要全视角的探讨和对话。